



Ⅵ. 健康食品管理士の資格者として



健康食品管理士の資格者として

河合 裕之
(常磐薬品株式会社)

私が、健康食品管理士を知り、受験したのは平成17年です。

それまでは私は薬剤師の資格をもつ化粧品会社の社員でしたが、平成17年の春から製薬メーカーの企画・研究員として従事する事になり、医薬品・医薬部外品・食品の情報収集を始めました。すると、自社内企画に於いても、お取引先さま企画に於いても、「いわゆる健康食品」に対する要望が多く、規制（製造から表示まで）から科学的根拠などを調査・研究する必要が発生しました。

その過程で、私の薬剤師としての知識と経験では、「いわゆる健康食品の広告表現等に納得できない事柄」が多く、基礎から勉強したいと思い、当該資格を取る事に決めました。その時、会社の上司・同僚は、公的資格で無い試験を受ける事に関して否定的な受け止めでした。

当時、効能効果を標榜する食品や海外で医薬品とされている品が横行したり、薬とともに不適切な食品を摂取する方など、プライベートでも非常に不思議な現象を垣間見ておりました。製薬、食品の古い方々は、「いつか法律が裁く」と非常に客観的な立場でした。私は「人が死んでからでは遅い！」と、危険視しておりました。

しかし、資格を取得した後は、これまで以上に自信のついた発言などが出来るようになり、現在ではメーカーとして企画を立てる際は勿論、宣伝資料の作成に関しても私がチェックする事が、私の会社では商品造りに於ける重要な承認ステップに成りました。

また、お取引先さまも私を介して、サプリメントの情報収集を行ったり、商品戦略アドバイスを求めるなど、私が当社のお取引先さまと強い関係を保つキーマンになる事が出来ました。

平成18年は『アガリクス問題』も春に出現し、メーカーとしては、自社品への早急かつ正確な対応とともに、一般市場情報も提供しなければならない状況も発生し、「単なるサプリメントの専門家でも無く・単なる薬剤師でも無い 私」を会社が必要としている事が全社的に明白になりました。

私の6年ほど前に聞いた言葉に『我々は未病だ』があり、最近も数回CFで流れました。『未病』とは、健康では無いが病院というほど悪くも無い状況を示す言葉です。我々の周りには、様々の食品と今後これまで以上に購入し易くなる一般用医薬品が氾濫しております。多くの『未病』の方が、ちょっとした食べ合わせや摂り間違い・摂り過ぎなどで健康を害しては、何の為の摂取行為だったのか問題だと思います。また、健康な方も未承認の医薬品などで病気になってしまうケ

ースもあると思います。我々、健康食品管理士が中心になり、人々の健康を守り、増進させなければ成らないと思い、現在活動をしております。

